

開物類纂 第四號

D800
K 3
1





司 法 省 文 庫

和 博

書 物

三  
三  
二  
二  
號

三  
四  
冊

函 架 部 門

# 開物類纂

第四號

開拓使

明治十三年三月刊行

司法省調查部司法研究室

D 800

K 3

1



開物類纂

緒言

北海道ハ山ヲ負ヒ海ヲ環ラシ物産ノ夥シキ固ヨリ言フヲ俟  
タス本使建置以來撫循勸誘專ラ殖産ヲ以テ先務ト爲シ遠ク  
海外ヨリ農工諸科ノ學師數名ヲ聘シ又動植ノ良種及ヒ器械  
ヲ購ヒ耕種牧畜採鑛製造等凡開産ノ事業隨テ傳習之ヲ現術  
ニ施シ全道駸々乎トシテ將ニ殷富ノ基ヲ成サントス爰ニ各  
事項ノ既ニ結果スルモノ或ハ試驗中或ハ前途施行ス可キ報  
文衆說等公文中ニ散見スルモノヲ抄録シ名ケテ開物類纂ト  
曰フ今ヤ逐次鐫刻ノ勸業ノ景況ヲ示サントス冀クハ全道ノ  
衆庶一層奮勵シ土地益闢ケ物産益殖シ將來ノ富饒果テ本使  
ノ望ニ負カサランヲ



凡例

一編中事項年月先後ノ順序ヲ問ハス得ルニ隨テ採録ス  
一矯龍氏全報農覺年報ノ類ノ如キ已ニ印刷ニ屬スルモノハ  
載セス

一是編行文ノ雅俗事目ノ繁碎ニ關セス都テ原文ヲ存スルハ  
其實ヲ失ハサルヲ要スルナリ

開物類纂第四號

目次

- 一 來曼氏地質檢査野業ノ報文
- 一 ケフロン氏外國資金ヲ以テ北地開拓ニ付建言書
- 一 石狩郡収穫米ノ品評並稻亞麻煙草試驗表
- 一 根室國西別鮭ノ説
- 一 渡島國知内村鹽泉函館灣海水食鹽製造ノ説
- 一 知内村鹽泉ノ分析並巡見景况ノ説
- 一 オコルセルト氏天度保多斯製造木灰燒集ノ報文
- 一 コイヌ、ホーマン氏葡萄園開設ニ付意見書
- 一 ユ、エス、ツリート氏北海道漁業ノ報文
- 一 ケフロン氏七重試驗場巡見ノ報文
- 一 ハヒエール商會ヨリ鮭罐詰改良ノ報文



○來曼氏地質検査野業ノ報文

千八百七十四年第四月廿六日芝呈

開拓使教師頭取顧問ゼチラル、ホーレンシ、ケフロン閣下

貴命ニ應シ本年地質検査野業ノ手續左ニ開申ス

「モンルー」氏ハ昨年ノ業ニ依テ砂金場測量ニ特別ノ實驗ヲ得ン爲メ同  
氏並日本補助ノ一半ハ松前近傍ノ緊要ナル砂金場ヲ検査爲致勇拂ト  
浦川ノ間紋別近傍ノ煤田且通行ノ序勇拂ヨリ十勝マテ海岸ノ地質ヲ  
モ検査セシムベシ○他ノ補助手等ハ二手トナシ空知煤田及ヒ昨年巡  
視セザル幌向煤田ノ部分ヲ概畧測量爲致度是レ廣大ナル煤田ノ一分  
ニシテ紋別迄連亘致シ居モ難計其廣狹及ヒ地勢ヲ決定スルハ最モ緊  
要ノ事ニ付本年中補助手ニハ十分ノ業ナルヘシ○野生ハ補助手秋山  
氏ト共ニ幌向煤田ノ南東ニアル「ユウベツ」川ノ上流ヲ見分シ煤脉ノ痕  
跡如何ヲ檢シ此煤田紋別川ニ達スルヤ否ヲ確定シ幌向及空知ニ於ケ  
ル補助手ノ業ヲ巡視シ石狩川ニ溯リ十勝河口ニ抵リ補助手ノ業ヲ閱

D 800

K 3

1



查シ又根室ヨリ北東海岸ユウベツ其他重立タル河流ニ溯リ更ニ石狩川ヲ下リ補助手煤田ノ業ヲ見ントス○旅行中地質ヲ検査シ又諸所ニ於テ昨年半季ノ如ク小測量ヲ爲スヲ得ベシ○北海道ノ北陸ニハ貴重ナル礦物ナシト雖モ若シ貴下ノ指揮次第石狩川ヲ經テ歸ルニ代ヘ北陸ヲ一周スヘシ○昨年ハ野業ノ間重立タル部分ノ圖取致サルヨリ冬間ノ業大ニ延引セリ本年ハ圖取ノ時間ヲ十分ニ與ヘカシ左スレハ測量ハ廣ク涉リ難シト雖モ今冬ノ業昨冬ヨリ充分ニ進歩ス可シ拜具謹言

○ケプロン氏外國資金ヲ以テ北地開拓ニ付建言書

余頃日開ク外國ノ資本及ヒ作爲ヲ以テ北地ヲ開クニ實際上最モ行ハルベキ方法ハ何等ノ件タルヤ余カ愚存チ建言セハ閣下之ヲ嘉納アルヘシト○閣下ノ深問ヲ考ルニ重ニ該嶋嶺山開採ノ事ニ係リ鑽利ヲ起スノ最モ速ナル手段ヲ求ムルニアリ閣下此事業ヲ起スニ方今日本人民中ニ存在スル他ノ物體(資本智識等)ヲ總テ云フ提起スルニ如カスト

信用セラレタルカ如シ實ニ之レ閣下ノ卓見ナリ然モ垂問ノ事ニ至テハ難問ノ一ニシテ閣下ノ問フ處單ニ外國ノ資本及ヒ勉力ヲ以テ該嶋ヲ開クノミニ止ラザルヲ知ル閣下尙一步ヲ進メ之ヲ爲ス如何ト問ハルニ至テハ余當初殆ント排除シ能ハザル諸患難アルヲ見ル○抑モ日本ノ形勢タル外國人旅行スラ未タ之レヲ許サス外國人ニハ特別裁判ノ權アリ邦人未タ何事ニ寄ラズ外國人ノ立入ルヲ猜忌スル風アリ此等ノ形勢閣下問題分解ノ件中ニ講究セザルベカラズ○請フ其依テ起ルベキ故障ヲ去ルノ二策ヲ陳シ閣下ノ參考ニ呈セン

第一 外國人ヲ日本ノ民律刑法ニ從ハシメ該島ヲ開クベシ即チ外國ノ勉力智巧及ヒ資本ヲ日本ノ勉力智巧及ヒ資本ト等シキ振合ヲ以テ該嶋ニ提起スベキナリ

此策一ト通思者スレハ至當ニシテ能ク行ハルヘキ如シト雖モ左ニアラス之レ前ニ論述ス特別ノ形勢アルニ據ルナリ○第一ニ外國トノ條約改正ニ至ラザルノ間ハ皇國中急進ノ改革ヲ成ス能ハス○條



約ニ依テ奉守スル邦國裁判ノ權北地ニ係ル丈削ラシカ此權ヤ最モ  
寛大ナル國(亞國等ヲ指ス)ト雖ヒ未タ之ヲ革ルヲ欲セサル往事ニ照  
シテ歷々證スベシ(三ヶ年前伊太利ノ公使蠶種紙商人ヲシテ内地通  
行ヲ許サレシガ爲メ旅行中日本ノ裁判ニ從フ云々ノ内議アリ此事  
ヲ聞キ大統領ヨリ英佛等ニ掛合未タ外國人日本ノ律ニ從フベカラ  
ザルノ論ヲ主張シ終ニ此議止ム本文此等ノ事ヲ言フナラシ(或云外  
邦人其智巧勉力ヲ施シ資本ヲ北地ニ措辦セシコトヲ願フ者ニハ歸化  
ヲ許シ前條ノ難事ヲ避クヘシト若シ此事行フベキモ余ハ之ヲ良ナ  
リトセス只律法ノ保護扞衛ヲ要ス且ツ外國ノ資本家恐クハ斯ノ如  
キ形勢ニ於テ出銀スルニ至ラス又其勉力智巧眞ニ有用ニシテ裨益  
ナル者ハ此手段(歸化)ニ依テ得ラルヘキカ亦計リ知ルヘカラス○日  
本ト盟約國ノ内多ク本國逐離ノ律アリ盟約國ノ人民其本國ノ律令  
及ヒ條約ニ依テ負フ所ノ本務ヲ棄テ能ク日本政府ノ民律刑法ニ從  
フコトヲ欲センカ最モ疑フヘキナリ

第二 日本政府ノ布令スル所ニシテ外國法官ノ嚴命スル律法及ヒ規  
則ニ從ハシメ(鐵道及ヒ遊獵規則ノ如キヲ云フカ)地方官又ハ本國官  
員ヨリ通行免狀ヲ與ヘ外國ノ資本及ヒ作爲ヲ以テ北地ヲ開クベシ  
此策タル日本政府ノ所見ト盡ク符合スルニ至ラザル余素ヨリ之ヲ  
知ル然モ若シ外國ノ資本智巧及ヒ勉力ヲ以テ北地ノ財利ヲ速ニ興  
サシニハ此策ヲ除クノ外實際ニ施得ベキ手段アルコトナシ方今外國  
政府ノ能ク同意シ得ベキ者此一策ニアルヤ必セリ若シ之ヲ北地ニ  
施行シ後漸ク全國ニ行ハ、其ノ由テ生スル紛紜變故モ從テ消絶ス  
ルニ至ラシ○北地ノ如ク人口稀少ナル國ニ於ケル古傳偏執ノ風習  
少ク故ニ此策ヲ施ス紛紜事件モアルコトナシ外國ノ資本家其銀ヲ措  
辦スヘキノ益田ヲ該島ニ發見シ外國ノ農工勞役ニ報ルノ道ヲ發明  
セハ日本ノ資本家及ヒ農工モ亦同方向ニ趣クニ於テ遅々セザルベ  
シ○民政ニ就テ云フニ外國資本及ヒ勉力ノ効能顯著ナルニ至テハ  
閣下渴望スル所移民ノコトモ亦其要領ヲ得ルニ至ラシ○進歩ナル者



ハ天然ナリ人造ニアラス然モ我輩多少之ヲ變通シ之レカ方向ヲ定  
ムルヲ得ルナリ○外國ノ勉力及智巧浸入セハ北地繁榮ノ精力益加  
ラン此ノ勉力智巧ヲシテ北地ニ入ラシムヲ得ルヤ否ハ日本政府ニ  
アリ○此策ヲ施セハ廣ク全國交際貿易上擴張ノ手段タルベシ左ス  
レハ一層其策ノ緊要ナルヲ覺フ○内外ノ移民ヲシテ固有偏執ノ風  
習ナキ地方ニ雜居セシムル時ハ彼我相親和シ交際ヲ防ク地方ノ弊  
風ヲ一變スルニ至ラン宜シク内外ノ人ヲシテ同位ニ處シ同業ヲ營  
ミ大成ノ志ヲ起サシムヘシ此交際ノ道漸ク皇國ノ地方ニ波及セハ  
即チ鈔幣交通ノ法則ヲ創定スヘシ○此策行ハル、ニ至ラハ該島巨  
大ノ鑛山外國ノ資本家ト約ヲ結ヒ之ヲ起業スヘシ人民ハ政府ニ稅  
ヲ納メ政府ハ諸鑛山等ヲ所轄スルニ至ルナリ○特別裁判ハ外國ノ  
智巧資本ヲ入ル、ニ於テ大ナル障礙アリト雖モ未タ俄ニ除キ得ヘ  
キニアラス故ニ之カ爲メ釀シ出ス難事ヲ減省シ聊施行スヘキ方法  
ノ鄙見ヲ陳述ス冀クハ賢慮ニ稱ハンコトヲ謹言

開拓使教師頭取兼顧問  
ホーレンシケプロン

○石狩郡収穫米ノ品評並稻亞麻煙草試驗表

北海道石狩ニ於テ昨年ノ収穫米見本御下付相成米性等取調可申上旨  
御囑示ノ趣敬承則鑒查候處該米性質ハ宛カモ陸前玉造郡地ノ産米ニ  
均シク或ハ其風土地味モ該地方ニ類似スルモノ乎ト推考セラレ候尤  
未タ新墾ノ田ナルヘキニ付將來肥培耕耘其宜キヲ得肥熟ノ真田ニ相  
成候ハ、恐ラクハ右玉造産米ノ上ニモ出ツヘクト豫想仕候現今品位  
ノ比較ニ於テハ三陸精撰上米ト品等同シキモノト鑒定仕候依テ此段  
拜答申上候也

明治十二年三月二十八日

米商會社



札幌官園稻試驗表

明治十一年調査

種類	反別	官園				京西				種類	反別	種子チ種子チ本田ニ水ニ浸苗代ニ移植セシメ日播キ日シ	除草	出穂	穂長短	刈採	脱實	糶	長短	葉	
		赤毛早	赤皮全	早稻糯	西久世早	忠治全	京久世早	早稻糯	赤皮全												
白毛早	六畝步	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
赤毛早	一畝步	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
赤皮全	三畝步	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
早稻糯	二畝步	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
西久世早	二畝十	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
忠治全	一畝廿	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

表解 表面収獲比較魯種ノ登實米種ヨリ減少スルハ群雀ノ害ヲ受タルナリ米種ノ稈魯種ノ半ニ充タサ

全上煙草試驗表

種類	反別	播種	發生	移植	肥料	培養	長	短	摘採	収量	目	比較
米國種	四反七畝	五月十七日	四月十九日	五月二日	糞	五月二日	五尺六寸	四尺七寸	八月二日	七貫二百	七百二十	六歩
魯國種	一反步	五月十七日	六月二十日	七月二日	糞	七月二日	四尺五寸	三尺八寸	九月二日	二百六十二	二百八十	比較

○根室國西別鮭ノ説

北海道ノ漁引鮭ハ毎年數百萬内地へ輸出スルヲ世人ノ知ル所ナリ就中根室國西別産ノ鮭チ第一トス鮭ノ性季節チ得テ川へ上リ卵チ産ス稍形チ成シ洋中へ散亂成長ス其洋中ニアル全身藍白色ニソ川へ上レハ脊部忽チ横班チ生ス班ニ赤黒ノ二種アリ川ニ依テ班色同カラス北海地方諸川皆然ラサルナシ又西別近傍一小川ノ鮭ハ絶テ班チ生セス色藍白ニソ太清瑩ナリ其群集スルヤ河面チ蔽ヒ頃刻ニシテ數万尾チ捕獲スルニ至ル形チ頭小ニ肉肥へ味甚甘脆ナリ醃藏暑中チ經ル敢テ腐敗セズ實ニ北海一種ノ名産ト稱スベシ

○渡島國知内村鹽泉函館灣海水食鹽製造ノ説 明治十一年七月廿九日



渡島國福島郡知内村山中ノ鹽泉並ニ函館灣ノ海水ヲ東京ニ廻送シ小野友五郎試驗場ニ於テ分析並食鹽製造ノ概畧左ノ如シ

製鹽新器械ハ空氣流通ノ梓屋ヲ組立内部ニ乾晒ノ物子ヲ滿タシ其上面ヨリ海水ヲ灌キ之ヲ分離シテ熬煮ノ法ヲ施スナリ該方ハ原ト西洋蒸氣濾ノ方法ヲ改正セシモノニシテ曩ニ我國ニ於テ西洋原法ニ據リ屢試驗セシニ功驗至テ少ナク僅ニ利益ヲ得ルノミ是レ梓屋ノ空氣流通適度ヲ得ザルト乾晒ノ物子我風土ニ相應セサルヲ察シ再三寒暑ノ試驗ヲ經テ終ニ之レヲ改良スルニ至リ分離頗ル迅速ナリ海水通常鹽分ノ厚薄ハ「ホクトメートル」四度乃至五度ニシテ其分離ニ於ル大凡一回或ハ二回ニシテ止ム製鹽水ハ二十五度以上ニ進メリ蒸氣濾ハ元來彼邦ニ在テハ山間ノ湧鹽ヲ製成スルノ方法ニシテ海濱ニ用ユベカラザルハ勿論ナリ然レニ我國ノ山間ニ於ル運輸ノ便ナク且ツ湧鹽ニ乏シク空氣ノ流通ハ海濱ノ如クナラス鹽水分離ニ於テ數回人力ヲ費スニ非サレバ熬煮ノ法ヲ施スベカラス是ヲ以テ製鹽器械ヲ發明シ初

テ山間ノ事業ヲ轉シテ沿海ノ地ニ施用スルヲ得タリ

食鹽試驗表

地 名	ホクトメートル	水壹升ノ目方	全上目方	水壹升ニ付テノ割	鹽壹升ノ目方	
函館大森濱	四 度	五百拾三匁	二合三勺強	七拾匁強	四升六合	三百〇四々三分五厘
同海岸町	全	四百八拾壹匁	二合強	六拾匁強	四升	三百目
同知内村	全	五百十二々五匁	二合三勺	七拾匁	三升五合九勺三才七五	三百〇四々三分五厘
上總國松ケ島	全	五百目	壹合五勺	四拾五匁	三升	三百目

表解 表中松ケ島ノ海水ハ鹽分ノ差違アルニヨリ小野友五郎ニ質問セシニ汚物或ハ油氣等夾雜ノ爲メニ如此差違アルナラント

○知内村鹽泉ノ分析並巡見景況ノ概記

- 第一 鹽泉 二〇、八グラム
  - 第二 同 三八、三五グラム
  - 第三 同 三〇、七グラム
- 右三鹽泉固有物ヲ含有シ各少差アリト雖モ大抵皆同質ニシテ左ニ舉ル成分ヲ檢出ス



クローレル、ナトリウム	食鹽	最多量
硫酸苦土 舍利鹽		多量
重碳酸石灰		中量
クローレル、カルシウム		少量
硫酸石灰	全	
クローレル、カリウム	全	

右六成分ノ外三鹽泉中ニ於テ重碳酸亞酸化鉄ノ痕跡ヲ檢出セリ

明治十年一月十六日

東京司藥場

全上鹽泉ノ巡見 渡邊章三記

明治十一年六月十日知内村山中ノ鹽泉汲取ノ命ヲ奉シ該地ニ就キ實檢ス地勢ハ全九年六月汲取リノ節見取リシ繪圖面ノ通り第一號ヨリ第四號迄ノ鹽泉ハ皆全派ナルヘシ此内第三號ノ鹽泉ヲ汲取タル概畧左ニ記載ス

此鹽泉ノ温度ハ華氏寒暖計五拾六度ニシテ大小ノ氣泡水面ニ沸騰ス

全ク一種ノ瓦斯アルヲ信ス鹽泉赤黄色ナレトモ汲テ之ヲ安ス稍沈澱シテ透明ヲナス泓口周圍赤黄色ノ土質凝結シテ自ラ岸狀ヲ爲セリ泓形橢圓ニシテ長三尺幅貳尺五寸深九尺餘大抵一時間ニ五寸四分湧出ス然レモ外面ニ流溢スルヲ見ス傍ニ堆積ノ落葉常ニ濕ヒタル有リ顧フニ泓底或ハ周圍ヨリ滲漏スルナルヘシ知内村ヨリ森越川橋迄壹里該橋ヨリ二里半餘ハ人跡ナク溪谷原野ヲ踰ヘ始テ鹽泉ニ至ル跋涉甚困難ナリ

同上鹽泉ノ景况

第一鹽泉大ノ方ハ泓長六尺幅三尺深七寸餘ニシテ河面ヨリ稍高位ニアリ泓底周圍トモ岩石ニシテ岩間細線狀ノ一二泉口アリ泉常ニ泓中ニ滿チ洋溢スルヲ見ス試ニ泉ヲ酌盡シ更ニ泉ノ滿泓ニ至ルヲ量ル壹時間ニ凡一石二斗一升ヲ湧出ス又小ノ方ハ泓長二尺幅一尺五寸深七寸餘ニシテ河面ヨリ高低平均シ河水ト相交通スルヲ以テ溢否ヲ計ル可ラス



第二鹽泉 泓長二尺幅一尺深五寸餘ニシテ湧出ノ狀第一鹽泉ニ全シ亦  
 泓外ニ溢レテ壹時間ニシテ凡一斗二升四合ヲ湧出ス  
 第三鹽泉ハ迸出頗ル烈ク沸音ヲ發ス然レモ泓外ニ溢レテ泓中深サ九  
 尺餘淤泥殆ノト三分ノ二ニシテ泓面積周圍ノ淤泥亦三分ノ一ニ居  
 ル純粹ノ鹽泉ハ頗ル狹隘ナリ其泓外ニ溢レサルハ願フニ泉一掬ヲ  
 湧出スレハ泓底罅隙アリ亦一掬ヲ滲入スルニ由ルカ蓋ク淤泥ヲ去  
 リ測定スルニ非レハ眞ノ湧出分量ヲ知ル能ハス  
 ○オ、コルセルト氏天度保多斯製造木灰燒集ノ報文  
 藥用保多斯製造ハ昆布莖葉延長ナルヲ採集シ又激浪ノ爲メニ根ヲ斷  
 ナ海汀ニ吹キ寄セタルヲ集メ風日ニ乾曝ス陰雨ノ節ハ収テ舍中ニ貯  
 フ採集ノ際決シテ清水ニテ洗フ可カラス之ヲ燒ク海汀ニ四角ノ穴ヲ  
 鑿リ其狀爐ノ如ク幅二尺深サ一尺ニシテ四方ニ石ヲ敷キ石灰ニテ目  
 塗リテ爲シ扱テ火力ヲ猛烈ニシテ夫カ爲メ灰ノ飛散セサル様注意ス  
 ベシ又灰中ノ炭ハ篩ニテ篩ヒ再ヒ燒直シ或ハ跡ノ海草ト共ニ燒クモ

可ナリ灰ハ少クモ三貫目若シクハ拾貫目程一二ヶ所ヨリ採集ス可シ  
 又爐中ニ土砂アレハ之ヲ掃除シ燒キ終ルトキ土砂ヲ去リ灰ト混合セ  
 サル様注意スヘシ灰ヲ荷造リ運搬スル雨水沾濡セサルヲ要ス昆布各  
 種アラハ少許ツ、灰ニ爲シ多量ノ見本ハ尋常ノ昆布ヲ燒キ贈ルヘシ  
 洋錠<sup>コンシヤ</sup>及ヒ石鹼用保多斯製造ノ木灰ハ北海道ニテ自今二十ヶ年後ニ至  
 リ伐木ヲ爲ス可キ地ヲ除キ容易ニ着手スベカラサルノ地ニ繁茂シタ  
 ル樹木ヲ燒キ其灰ヲ取ルベシ此ボツタースヲ製スル灰ヲ採集スルハ  
 北海道ノ内地ニ限ルヘシ見本ノ灰ハ各壹斤ニテ足ルト雖モ一種ノ木  
 ナ燒キ其灰ヲ取リ土砂或ハ其他汚物ノ混淆セザル様注意シ之ヲ燒ク  
 法ハ適宜ニ爐ノ如キモノヲ清潔ニ掃除シ用ベシ又灰ヲ取ル樹木ハカ  
 モイコタンノ東ニ當ル石狩川ノ平原ニシテ來曼氏ノ着色圖ニメタモ  
 ロフイツク、ロツクト示ス處ノ地方ニ花岡石<sup>グランド</sup>ノ生スル地アラハ其邊ニ  
 生長スル樹木ヲ最上トス又ザルノ東ニ當ル南海岸ノ河或ハ十勝河ノ  
 近傍ニアル平原ニ生スル樹木ヲ用フルモ良シザルニヨリシヤマン迄ノ



地方ハ右ノ「メタモロフイック」ノ部類ノ地ニ非スト雖此所々ニ花崗石  
アルヘシ又「チユウフア」ノ土ノアル所ヨリ伐木シテ灰ヲ取ルモ可ナリ  
灰ノ見本ニハ必其樹葉ト木ヲ添ヘ贈ルヘシ木ハトヤ松ヲ最モ多ク用  
フヘシ又樹木ノ根下ニアル天然ノ性質ヲ存スル量目各壹斤以內ノ石  
ヲ一箇ツ、添フベシ

東京大學醫學部

千八百七十八年十月廿五日

オ、コルセルト

○コイス、ポーマン氏葡萄園開設ニ付意見書 明治十二年四月十八日

北海道ノ土質及ヒ季候他ノ葡萄酒ヲ釀造スル國々ト比較スルニ葡萄  
培養ニ適宜ナリト云フ可ラス然レニ當道南方ニ相當ノ土地ヲ見立テ  
葡萄園ヲ開設シ内國ノ飲料ニ供ス可キ葡萄酒ハ釀製シ得ルベシ但海  
外諸國ヨリ輸出品ト優劣ナキ良好ノ葡萄酒ヲ釀造スルハ難トス○  
海外互寒ノ諸國ニテハ都テ葡萄園ヲ高低適宜ノ丘岡ニ設ク其地岩石  
ノ結構ハ石灰石或ハ之ニ類似ノ物質トス又土質ハ石灰質ノ物件多少

ヲ含有スルモノナリ○北海道ニハ未ダ斯ノ如キ土地ヲ發見セス葡萄  
培養ニ適宜ナル地ナキヲ以テ他ノ地方ニ比スレハ人工及ヒ費用ノ多  
分ヲ要ス若シ強硬ナル葡萄ヲ當道ニ栽培セハ繁殖シテ好収穫アリト  
モ汁液ヲ搾出シテ其酒ヲ釀製スルニハ可ナラス當道ニ葡萄ヲ栽培ス  
ル最モ良ナル方法ハ全道中各地方ニ少許宛每種貳百本葡萄苗ヲ植ヘ  
然ル後實地試験ヲ經テ其蕃殖良好ナル種類ヲ精撰シテ更ニ園圃ヲ盛  
大ニスベシ○排水ノ便アル南方傾斜ノ高丘ニ於テ寒涼ノ北風ヲ防キ  
葡萄ヲ培養スルハ尤良トス其結果糖分多量ヲ含メリ是レ造酒ニ良好  
ナル葡萄ノ性原トスル所ナリ○丘岡ノ斜面ニ於テハ葡萄ノ成熟尤早  
シ低地ハ甚タ蔓延セス但培養採摘等ニ於テハ便宜ナリトス○内地ノ  
葡萄及ヒ桑樹山背ニ在テハ落葉最モ速ナリ予屢注目セリ但卑濕ノ地  
ニテハ降雪ノ際マテ尙莖葉青色ヲ帯ルモノアリ○歐米其他北海道ト  
等シキ諸國ニ於テ成熟スル種類ノ葡萄アラハ當道ニ於テモ成熟スル  
ヤ必セリ又他國ニ於テ良好ノ酒料ヲ釀造スヘキ葡萄モ當道及ヒ其他



ノ國ニ於テ適應スル否ヲ確知スヘカラス故ニ是等ノ種類經驗スルニ  
 非レハ果シテ何種當道ニ適應スルヲ勸奨シ難シ當道ニナキ數種ヲ  
 栽培スル前在來ノ各種ヲ試驗シ次ニ歐洲ヨリ近々來着スヘキ種類ヲ  
 試驗スベシ現今札幌ノ葡萄園ニ栽培セル左ノ四種アリ其三種ハ當秋  
 結果スヘシ

コソコルド、グレイプ	九千四百本
ハルトフォルド、プロリフ井ツキ	千百四十本
ダイアナ	三百六十本
アイブス、シードリソク	六百七十八本

末條ノ一種ハ前ノ三種ヨリ栽培一ケ年後レタレハ結果必多量ナラス  
 其收穫全量ヲ見ル一ケ年ノ後ナルベシ○前ノ三種中既ニ昨年結果セ  
 シモノ些少アリト雖モ品位頗ル劣レリ是レ寒氣ノ致ス所ニ由ル歟原  
 因ハ未タ説明スル能ハス○此葡萄ノ位置タル頗ル低濕ナルヲ以テ排  
 水ヲ能クセハ葡萄ノ質ヲ改良スルヲ得ヘシ當年季節至ラハ速カニ若

手セントス今現ニ葡萄苗九種アリ未タ試驗チナサ、ル前之ヲ盛大ニ  
 栽培スルハ予勸奨スルアタハス若シ新ニ園圃ヲ設ケントセハ高爽ノ地  
 ヲトスルヲ肝要トス○目今ノ葡萄園ニテハ來季幾何量ノ結果ヲ收穫  
 スヘキヤ又之ヲ以テ幾何量ノ酒ヲ醸造シ得ヘキヤトノ質問ニ預リタ  
 レル予ハ未タ其一種ダモ試ムルヲナシ加之其收穫品悉ク造酒ニ適ス  
 ルニ非ス且ツ販賣ニスラ適當セサルヲ以テ敢テ其意見ヲ述ヘ概算ヲ  
 ナスヲ得ス○地味氣候地勢等葡萄ニ適良ナル諸國ニ於ル成績ヲ諸書  
 ヲリ採萃シテ示スモ只推算ニ屬スルヲ以テ當道人民ニ取テ少シク益  
 アル歟或ハ全ク無益ナルヘシ○他國ニ於テ良好ノ酒料ヲ醸造スル葡  
 萄數百種アリ當道ニテ此種類ヨリシテ良好ノ葡萄酒ヲ醸造シ得ヘキ  
 ナ人民ノ腦裡ニ感染セシムルハ難事トス○早熟ノ葡萄ハ概テ造酒ニ  
 於テ尤賞用ス其成熟マテ永ク暖季ヲ要スル他ノ種類ニ比スレバ其價  
 特ニ貴シ○今爰ニ何レノ種類當道ニ適シ如何ナル景況ヲ顯スヘキヲ  
 考究セントスルニ際シ他國ニ於テ醸造ノ適否ヲ問ハス當道產出ノ葡



葡種ヲ以テ醸造シ得ヘキヤ否ヲ試ムルニアリ敬具

コイス、ボーマン

○ユ、エス、ツリート氏北海道漁業ノ報文  
余千八百七十七年八月三十日米國ヨリ東京へ到着シ官吏ニ接見シ鮭  
及ヒ其他ノ商品ヲ鑑詰トスヘキ製造場ヲ建設スルニ要スル物件ヲ報  
知セリ○器械製作場ニ到リ必要ノ物品ヲ其場長ニ通知スヘキ旨ノ下  
知ヲ受ケ直チニ之ヲ注文シケレハ即時製造ニ取掛リ日ナラス總テ回  
漕スベキニ至リシカ余ハ其器具ノ落成ヲ待ノ間ニ於テ魚市及ヒ漁舟  
ヲ審査スルノ機會ヲ得タリ○余カ見タル魚類ハ其種類許多ニシテ全  
ク佛國鮭ト全種ナルモノアリ其若干尾ヲ精養軒ニ於テ調進セシニ味  
甚美ナリ○又蝦ノ一種ニシテ其狀頗ル米利堅蝦ニ類似シ肉色及ヒ質  
ノ美ナル毫モ異ナルヲ無シ但シ米利堅蝦ハ其品評萬國ニ勝レリ鮭及ヒ  
青魚モ市場ニ見タリ青魚ハ歐米ニ於テ特ニ賞翫スル所ナリ○器械及  
ヒ諸人ト與ニ玄武丸ニ乗込ミ九月十六日天氣清朗東京灣ヲ發セリ解

纜ノ後二日目魚ノ大群ニ逢ヘリ船上ヨリ之ヲ視ルニ青魚ノ如クニシテ  
幾ント一日程絶ヘス魚亦小魚ヲ驅逐蠶食シテ爽快ノ狀有ルカ如シ○同  
月十八日函館港ニ着シ官吏及ヒ市民ニ接見シ近傍大口魚鮭及ヒ鱒ノ  
漁獲アリ鮭ハ太多ク昆布ノ輸出亦盛ナル由ヲ聞ケリ○二十日函館ヲ  
解纜シ小樽ニ向ッ大約六十英里ニシテ沿岸ニ位置セル一邑ヲ望メリ  
人家數千戸有名ノ漁場アル地ナリト云ヘリ○二十一日小樽ニ到着セ  
リ該港ハ住民數百戸大口魚及ヒ鮭漁場ノ廣潤ナルニ名アリ該地ヨリ  
大約二十英里ノ間騎行シテ北海道ノ首府ナル札幌ニ至リ官吏ニ見ヘ  
シニ接待鄭重ニシテ宏麗ノ旅館ヲモ貸與セラレ官立ノ家屋及ヒ學校  
等ヲ見タリ該府繁榮ノ進歩ハ甚タ速ナリト云フ余輩ハ諸事ヲ整頓シ  
該地ヲ距ル東北十七英里ナル石狩河口ノ製造場ニ移轉スルノ準備ヲ  
ナセリ○諸器械及ヒ小道具モ日ナラス石狩ニ到着セリ一家屋ノ既ニ  
本年夏月中建築セシモアリ少シク之ヲ模様替シ頗ル我目的ニ適ヘリ  
直チニ蒸氣罐ヲ据ヘタリ○十月十日初メテ五十尾ノ鮭ヲ鑑詰ニ着手



ス役夫事ニ馴レサルヲ以テ遅緩ニシテ充分ノ製造ヲ得ス○製造場開業後間モナク堀君及ヒ庶僚巡見喜悅セラル其後日ナラス函館駐劄英國領事モ來觀アリ次テ「ハリ、パークス」君モ亦臨マレタリ○當時困難中ノ最大ナルハ錐ノ下品繼目粗悪ニシテ往々肉汁漏洩スルナリ之レ職工ノ不鍛鍊ヨリ生スルコトニシテ少シク練熟セハ全ク免レ得ヘキノ困難ナルハ論ヲ待クス其後間モナク鮭ハ夥シク群集シ河口外ニ於テ捕獲甚ク盛ナリ上流大約半英里ノ處ニ一家屋少シク之ヲ摸樣替シ魚肉及ヒ獸肉ヲ醃藏及ヒ蒸製ノ場所ト成セリ○十一月九日ニハ一ト曳ノ網ニ三千乃至五千尾ノ鮭ヲ得タリ網ハ各長六千尺深四十尺ナリ千八百七十五年一ト曳ニ一万尾ノ鮭ヲ獲タリト聞ケリ○十一月二十九日ニ至テ鮭ノ數大ニ減シ形狀甚瘦削セリ因テ漁事ハ漸ク廢止スルニ至リ○蒸製鮭ヲ市場ニ出シ品格良好ノ景況ヲ示サント製造整頓シ直ニ之ヲ輸送セシメテ要スレヒ運送其便ヲ得ス當時石狩ニ殘ル所ノ蒸鮭許多ニシテ頗ル損害ヲ受ントス○鮭漁季節過去ノ後ハ鹿肉製造ニ取掛

レリ鹿肉ハ管ニ多量ナルノミナラス肉質甚タ美ニ海外著名ナル鹿肉モ此ニ及フモノナシ依テ此醃藏鹿肉ヲ以テ一大商業ヲ起シ得ヘキハ疑フヘキニ非ス北海道ニハ箬竹到ル處ニ繁茂シ東海岸ハ積雪甚タ薄フシテ竹ヲ壓セサルガ故之ヲ食ヒ食物缺乏ノ憂無シ余カ聞ク所ニ據レハ年々鹿ノ獵殺二万乃至三万頭ニ及ヘ目ニ見ユル程ノ減少ヲ生セスト云フ○札幌産ノ牛肉ヲモ少許醃藏シ以テ當季ノ事業ヲ終ヘタリ

蠟

蠟凡二千俵ヲ東海岸ヨリ漁船ヲ以テ取寄セ十二月十九日ニ陸揚セリ天氣寒冷故ニ損傷甚タ稀少ナリ最後ノ陸揚ハ全月二十八日ニシテ三十俵ハ悉ク罐詰トナシ其餘三十俵ハ石狩河ノ東側ニ植付ノ積リナリシカ氷雪凝結シ植付ノ都合ヲ得ス若シ明年之ヲ試ミントナラハ氷雪障得ナキ今少シク河口接近シタル良好ノ个所ヲ擇フ可シ○此種ノ蠟殼厚ク性强キヲ以テ函館及ヒ東京ニモ移植スヘシ一千五百英里位ノ



遠地ニ運送スルモ必ス損傷セズ米國ニテハ一層弱キ鱈ヲ遠隔ノ地ニ送ルコトナリ此鱈ハ殻ノマ、或ハ殻ヲ破リ又罐詰ニシ之ヲ試ルニ其風味及ヒ肉汁ハ外國名譽ノ鱈ニ比較シ甚ク優ルヲ覺フ若シ然サルモ全等ノ品位ヲ得ベシ

鮭

石狩河鮭ノ漁場ハ從來著名ニシテ年ニ寄リ其漁獲大約一百八十万尾ニ至ルト就中秋漁最モ多ク漁獲總高三分ノ二ニ居レリ○春鮭ハ具ノ鮭カ或ハ鱈ノ一種ナルカ未ダ疑ヒナキ能ハス此迄ノ報知ニ據レハ其魚ハ隨分大形ニシ甚ク肥ハ肉色極メテ濃厚ナリ罐詰トナスニ最良品ナルカ如シ本年充分ニ試験センコトヲ要ス漁夫ノ言ニ春鮭ノ漁獲温候ナレハ醗藏甚難シト然モ其困難ハ容易ニ避ケ得ヘシ斯ル貴重ノ魚ヲ注意保存センコト最緊要ナリトス

鮭ノ養殖

鮭卵孵化ノ爲メ適宜ノ地ヲ札幌ニ相シ機械裝置ノ一舎ヲ建テタリ然

レハ卵子ヲ得ル前既ニ冬月ニ屬シ二十五英里ノ路程ヲ經テ孵化所ニ達スルハ際凍死セリ故ニ雌雄ノ鮭ヲ取寄セ孵化所ニ於テ卵ヲ取コトヲ謀レハ寒天風雪ノ爲メ遂ニ之ヲ爲スヲ得サリキ○若シ此業ヲ成就セントスルニハ十一月中旬鮭ヲ撰擇シ卵子ノ成育スル迄ハ孵化所近傍ノ池ニ養ヒ置カンコトヲ要ス米國ニ於テハ此法ヲ以テ年々數百万ノ鮭卵ヲ孵化シ是ヨリ生スルノ利益ハ藉々トシテ世ニ稱セリ是迄鮭ノ多カリシモ漁獲其度ニ過キ絶無ニ歸セシ地ニ放養シ再ヒ増殖ヲ致セシノミナラス從來該業未ダ曾テ見サル地ニ亦之ヲ生スルニ至レリ

大口魚

小樽ヨリ取寄セタル大口魚ハ其狀肥大ナリ之ヲ鹽漬曝乾セシニ品格合衆國製品ト甚ク相類似ス該魚ハ十二月一月及ヒ二月ノ交多ク當島ノ洋中ニ於テ漁獲スト若シ漁夫ヲシテ漁事ノ便ヲ得恰好ノ漁舟ヲ供セハ漁獲ノ増加スルヤ明ナリ○鹽漬ノ方法ハ脊ヲ剖キ鹽氣ヲシテ能ク肉中ニ徹セシメ地上高サ四五尺ノ細キ棒ノ上ニ架シタル棧ニ上セ



曝乾ス此製品如何ナル遠輸ナリ且腐敗ノ患ナク外邦ニ於テハ其需用殊ニ大ナリ

餅

小樽ノ鮮漁ハ甚々盛大ニシテ多ク南部ニ輸シ就中魚油及ヒ締粕ノ製造最モ大ナリ油ハ臭氣殊ニ甚シク色亦濃黒ナリ煮沸ノ製スル者ノ如シ米國現行ノ方法ハ魚ヲ捕フルヤ否蒸氣ヲ仕掛ケ油ヲ締ルナリ若シ直ニ煮ルコトヲ得サルキハ魚二百斤ニ鹽五升弱ノ割ヲ以テ魚ヲ剖キ鹽漬トシ腐敗ヲ防キ十日乃至二週間ヲ經モ油分ヲ損スルコトナシ○蒸氣ヲ用ヒ製スルヲ得サル時ハ目下所用鐵釜ノ裏面ニ薄キ銅製ノ釜ヲ容レ其中間ニ多少ノ空隙ヲ存シ水ヲ盛リ之ヲ煮レハ油ノ燃燒スル患ナク色淡薄ニシテ臭モ亦甚キニ至ラス○米國ニテハ輸入ノ海馬糞漸次減少シ當今ニ至テハ魚類ノ締粕ヲ代用スルコト莫大ナリ締粕ノ良キ者ハ「ア」ノモニア」ヲ含ムコト率子八分乃至一割四分ニシテ輸入ノ海馬糞ト殆ソト全シ今ヲ距ル二十年前ニハ海馬糞ニ含有セシ「ア」ノモニア」ハ大約一

割五分ナリ○小樽ノ漁場ハ石狩河ヲ距ル僅カニシテ順風ニハ二三時間ニ航行スヘシ河口ハ洲沙多ク水深率子一丈二尺ナリ故ニ喫水淺キ船ハ四時常ニ港内ニ入ルコトヲ得ヘク港内ハ水深クシテ碇泊殊ニ良ナリ○船舶出入ヲ安全ナラシムルハ河峽ニ浮標ヲ設ケ航路ヲ視認セシメノコトヲ要ス○目下建築中ナル輸車道落成セハ札幌石狩ノ間交通ノ便ヲ得テ石狩ハ人口ヲ増殖ス可シ○交通及ヒ運貨其便ヲ得ハ石狩ハ廣大ナル漁業ノ中心トナラシムルハ自然ノ勢ナリ○現今ノ製造場ハ次回ノ漁期ニ至ル前ニ罐製且ツ貯藏スヘキ場所ヲ増築セシコトヲ要ス二個ノ蒸氣罐ハ一日五千罐ヲ製得スルノ容量アリ然モ目下ノ製造場ニハ陸續罐ヲ製シ且ツ貯藏スルノ餘地ナキナリ○補助手「テ、スウエツト」氏ノ補翼勤敏ナル余ガ一大面目トスル所ナリ出島氏モ亦譯官トナリ一般ノ事業ニ最モ有用ナリ石橋氏ハ鮮漁ノ季節中製造場ニ在テ從事セシカ東北海岸ヲ巡回セシメ爲メ召戻サレタリ現術ハ多ク生徒ノ手ニナリ進歩最モ速ニ罐ヲ製シ肉ヲ剖キ調製匣詰トナシ市場輸出迄ノ事ヲ執



ル昔其任ニ適シ一層精密ノ業ヲ成スニ堪ユル者トナレリ○鮭ノ熏製及ヒ大口魚ノ醃藏ハ佐々木氏ニ任セリ全氏ハ信實ニシテ完全ニ就業シ得タリ金澤氏モ亦善ク補助ヲナセリ敬具

千八百七十八年四月三日

ユ、エス、ツリート

デ、ビ、ベンハルロー代書

石狩製造場製品表

年 度	品 名	数 量
明治十年十一月	鮭 鹽 漬	二十五斤入 八 十 樽
同	鮭 卵	一斤入 八 十 五 罐
同	牛 肉	全 二 百 二 十 二 罐
自同年十月至十二月	鮭	二斤入 一 万 二 千 九 十 二 罐
同年十二月	熏 鮭	七 百 六 十 九 尾
自同年十二月至十一年三月	蠣	一斤入 三 千 二 百 二 十 六 罐
同年三月	鹿 肉	全 九 千 三 百 五 十 八 罐
同年三月	乾 製 大 口 魚	二 千 四 百 尾

○ケアロン氏七重試験場巡見ノ報文

千八百七十四年第五月二十四日函館呈

開拓次官黒田清隆閣下

余昨日七重ヲ巡見セシニ嚮ニ見分ノ節トハ適好ノ事業多ク行レ方今ノ形勢ヲ見ルニ稍完成ニ至ルヘシ○此園ニ費ス定額増加スル迄ハ暫ク道路開鑿等ニ消費ヲナサス本年ハ掃除排水開墾柵取建ニ限リ須要ノ食物牛馬用ノ草種ヲ植付ル可シ余掛リノ人々ニ施行ス可キ手順ヲ示シ置タリ○草及ヒ食物ハ必ス此地ニ植付サルヘカラス殊ニ東京ニハ廣ク植付クヘシ然ラサレハ牛馬ヲ牧スルニ入費多シ余各種ノ草類多ク輸入セシヲ屢建言セリ冀クハ余カ忠告少ク容ラレシヲ内地北海トモ成效多ク此事ニ關スル明カナレハナリ○農事ニ用ル輕便ナル車當地及ヒ札幌ニ於テ有用ナラン又東京ノ官園ニ用ル所ノ一馬牽ノ車モ宜シカルベシ當地ニアレドモ日本馬ニハ少シク重シ全シ形ニテ輕便ノ車聯邦ニアリ兩國ニ二三輛ツ、手本トシテ購入セハ日本人



之ヲ摸製スルヲ得ヘシ能ク乾タル材木ヲ用ル一大眼目ナレバ札幌着  
 ノ上ハ車ニ用フヘキ大サニ各種ノ材木ヲ鋸斷シ能ク乾ク機官員ニ申  
 立ツヘシ○七重ニ於テ穀類ヲ粉末トシ其他農業ヲ爲スニ水車ヲ運轉  
 スヘキ程ノ水流アリ札幌ノ如キ粉磨ヲ設ケ各種ノ麥ヲ粉末トシ又ハ  
 米ノ粉ヲ去ルニ最良ナラシ器械ヲ買入レ建物ヲ造リ溝ヲ鑿リ車場ニ  
 水ヲ引ク等一千五百乃至二千元ニテ足ナン此車ハ近傍人民ノ穀類ヲ  
 粉磨ス可シ余此事ヲ上申スル者ハ米麥ヲ手ニテ粉磨シ及米ノ粉ヲ去  
 ル徒ニ勞力入費多キヲ以テナリ○草類其他ノ品ヲ輸入シ培養スル事  
 ニ付今少シ注意セザレハ牛馬羊等ノ牧養成效覺東ナシ○牝馬ハ今ノ  
 如ク不絶廐ニ繋キ穀養ス可ラス夏中ハ牧場ニ放テ大氣中ニ運動セシ  
 メ青食ヲ與フヘシ之レヲ放テ自ラ食ヲ求メシムヘキ曠濶ナル牧場ナ  
 クハ十「エーカ」許ノ地ニ墻ヲ設ケ其内ニ放テ時ヲ定メ苜取タル草ヲ持  
 込ミ地上ニ散布シ與フヘシ如此スレハ体自ラ壯健ニ期ヲ定メ子ヲ産  
 スルニ至ルヘシ○東京ニアル羊類其數稍増加シタレハ牧場ヲ廣クス

可シ然ラザレハ夏間夜中押合混雜スルカ爲メニ病ヲ生シ死亡スルニ  
 至ル狗防ノ法立タハ晝夜トモ放テ置ク可シ但シ霖雨ニハ棲止ノ會無  
 ルヘカラス○出帆前横濱「レ」ン、クヲウホルト「ノ」輸入セル牡羊ニ付一  
 書呈シタリ若シ東京七重ノ畜類余ガ所有ナラシニハ彼ノ最良ナル「ソ  
 ー」ツ、ド「ー」ン種ノ牡羊二頭ヲ幾元ニテモ買入レ一ナ七重一ナ東京ニ置  
 クヘシ一ケ年間此牡羊ノ種ヨリ出ル羊子ハ殆ト贖フ所ノ價ニ二千倍  
 スヘシ是レ余カ深ク信スル所ナリ切ニ閣下ノ此「ソ」ー「ツ」ド「ー」ン種ノ牡  
 羊ヲ買入ラシ「ソ」ヲ欲ス○余明日室蘭ヘ向ケ出立ス可シ余カ忠告セル  
 件々速ニ採用アラハ完好ノ園トナル「コ」必セリ○果樹ヨク生長ス道路  
 開鑿ノ爲メ玉蜀黍等ノ植付少シク後「レ」タリ因テ意見等委ク申置タリ  
 書記官ナキヲ以テ亂筆草々拜具

開拓使教師頭取兼顧問

ホーレシ、ケアロン

○ハビエール商會ヨリ雜錄詰改良ノ報文



贈致セラレタル鮭ノ見本米國へ送りシニ左ノ調書ヲ得タリ多少ノ利益ヲ與フ可シト信ズ○品位ノ見本トシテ米國「チレゴン」ニテ出來セシ鮭詰一罐ヲ呈ス希クハ此見本ノ如ク調書ノ方法ニ據リ罐詰改良製造ノ上送附アラソクナ○英國龍動ヨリモ書狀來着セリ右ハ先日全所へモ鮭見本送致セシ故ナリ該所ヨリハ罐一箇ニ付斤目一斤入云々ノ品評ノミ申越セリ

千八百七十八年第七月二十七日

バビエール商會

品評調書

- 第一條 鮭肉色ハ「ローゼイ」(薔薇花)チ長トス都テ河水ノ海ニ落入ル處ニテ捕ヘタル鮭チ上等トス貴地ヨリ送附ノ鮭ハ川ノ中央ニテ取リ獲シ鮭ニ付肉白色ニシテ可ナラス
- 第二條 鮭肉罐詰ノ前魚皮チ入念取去リ然ル後肉チ罐ニ詰メ肉ヨリ出ツル水分ニテ充分ニ付他ノ水分チ入ル可ラス
- 第三條 肉ノ目方ハ貳斤ヨリ上ヲサルチ要ス

- 第四條 貳斤入ヨリ壹斤入望人多シ故ニ貳斤入ハ總荷ノ十分ノ一ニテ然ル可シ
- 第五條 箱荷造リハ一箱ニ付壹斤入ノ罐ハ四「ダース」貳斤入罐ハ貳「ダース」入チ可トス
- 第六條 罐ニ貼スル印紙ハ英文ニテ記載シ和文ハ記入セサル方可ナリ

(以下休刊)

司法省文庫  
第1976號



發兌書肆

北畠茂兵衛

日本橋區通二丁目十五番地

土屋忠兵衛

芝區柴井町十六番地







